

なつやすみにプールにいったよ

プールに行ったんだね。楽しそうだね。どっちがよい子かな？

●おひさまマークの子とおひさまマークの子、どこが違うかな？（子どもたちの反応を待ちましょう。「お母さんと一緒に来ている」「子どもたちだけで遊んでいる」等の反応が出るものと思われまます。）そうだね、いろいろ違いがあるね。

●ではひとつずつ見ていこう。まずおひさまマークのプールの外にシマシマの服を着た人がいるね。あの人は何をする人だろう？そうだね、監視員さんだね。プールで遊んでいる人たちが溺れていないか、あぶない遊び方をしていないか、見ているんだね。（監視員のメガホンを指して）監視員さんが持っているこのオレンジ色のものは何だろう？そうだね、メガホンだね。これを使うと声が遠くまで届くんだ。監視員さんの言うことは必ず聞かなくてはいけないよ。

●ではおひさまマークの絵を見てみよう。あれ、監視員さんがいないね。どこに行っちゃったんだろうね？でもお母さんが見ているから大丈夫？そうかな？お母さん、横を向いて誰かとおしゃべりしているみたいだよ。子どもたちの方は見ていないね。これでは子どもがおぼれそうになったときに助けられないね。

●（おひさまマークの絵の浮き輪を指して）これは何だろう？そうだね、浮き輪だね。みんなも持っているかな。浮き輪があればおとなの人がいなくても大丈夫だと思う？うーん、そうかな？この浮き輪はロープがついているからそこにつかまれるかもしれないけれど、みんなが使っている浮き輪にはロープがついていないでしょう？それに浮き輪ってツルツルしているからなかなかつかまれないんだよね。「浮き輪があるから大丈夫」と思わないで、プールに入るときは必ずおとなの人と一緒に入らなければいけないよ。

かみしばいを演じる方へ

「プール」

①子どもたち自身に両者の違いを見つけてもらうようにしましょう。

②この絵のポイントは、「プールで遊ぶときもおとなの人と一緒に」「監視員の指示にしたがう」

「浮き輪を過信しない」です。子どもたちがこれらのポイントに気づくよう、ヒントを与えてあげてください。気づかない場合は教えてあげてください。

③参加者の中におとなの方がいる場合は、「浅いプールであつても子どもだけでプールに入れるのは危険なので、必ず一緒に入ってください」

「子ども用の浮き輪は救命具にはならないので、必ず腕の届く範囲に子どもがいるようにしてください」
とお願いしてください。